

マタイの福音書 第6章 24節

「だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」

このみことばは黙想 71 で取り上げた。再び取り上げるが異なった体験から照らされた真実を綴ってみたい。

久しぶりに車での遠出となった。早朝まだ暗いなかの出発となる。目的地は一つ、その道をひたすら走るだけである。横道に逸れたら目的地に着けないのは当たり前だ。道中には町があり、農地がひろがり、そして紅葉を楽しませてくれる雑木林もある。時々それらに目を移すとしても、基本は走るべき一本の道の上に車輪はある。

物理的に二本の道を同時に走るようなことは不可能だ。走るべき道を選び、他の道を捨てるのが目的地へ到達することへの保証だ。ハンドルを握る者の当然な意志である。それなのに、人生のハンドルを握りしめたとき、人は幾つもの道を生きたがる。到着地点は霧散し、走っているわけも消滅し、幻想のなかを走り続けてしまう。

「あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」
そのように造られている。